みんなの
尼活
皆議

学びの多様化学校開校に向けて

令和８年４月に開校を控える学びの多様化学校 保護者や関係団体が求めることとは…

令和６年10月９日、保護者や不登校児童生徒支援団体・機関の皆さんと学びの多様化学校について話し合いました。尼崎市においては、令和８年４月の開校に向けて準備を進めていますが、より良い学校となるよう様々な意見をお聞きしました。

学校のカリキュラムについて

【参加者からのご意見①】

○ カリキュラムについては、学びの遅れをより早期に取り戻すことができるように、中学校の内容にこだわらず、手厚い対応をしてほしい。

【これからの対応について】

● 学びの多様化学校では、不登校児童生徒の実態に配慮した教育課程を特別に編成し、教育を行うことができることから、現在、その特別の教育課程の検討を進めているところです。

● 教育課程の編成は児童生徒ごとではありませんが、一人ひとりの状況により学び直しが必要となる場合に、柔軟に対応することは大切であるため、時間割等で工夫を行い、対応を図っていきたいと考えています。

円滑に学校生活になじめるように…

【参加者からのご意見②】

○ 新しい学年や先生に緊張する４月の１か月間程度は、試行期間のような位置付けで、子どもたちがより円滑に学校生活になじんでいくことができるよう取り組むことはできないかなぁ…

【これからの対応について】

● 生徒が安心して過ごせる環境を作ることは非常に重要であり、環境の変化が大きい４月については特に、学校生活に対する不安や緊張をやわらげる環境調整を教職員側も生徒自身も図っていくような期間としていきたいと考えています。

給食について

【参加者からのご意見③】

○ 給食を苦手とする子どもも多く、給食が不登校の要因となることもあるため、学びの多様化学校では給食を食べない自由がほしい。

【これからの対応について】

● 給食は、子どもの心身の健全な発達に資するとともに、食に関する正しい理解と適切な判断力を養う役割を果たすものであり、また、保護者の負担軽減の意味合いからもメリットがあります。一方、食べる時間・場所・メニューや準備・後片付けの時間について柔軟に対応することができなかったり、給食の時間までに登校するか否かの確認を行う必要があるなど、給食の時間を中心に行動せざるを得ない状況が生まれます。

● 不登校生徒を対象とした学びの多様化学校では、そうした制限は低減させた方がよいと考えており、学校給食法に基づく給食は実施せず、生徒個々のニーズや状況に応じて昼食がとれるような環境づくりを目指していく予定としています。

療育の視点を持った体制整備は

【参加者からのご意見④】

○ 不登校の要因としては発達障害も考えられるため、療育の視点を持った体制を整備していただきたい。

【これからの対応について】

● 不登校の原因やきっかけは様々ですが、その背景として発達に課題がある場合も想定されるところであり、教職員の研修や多職種連携を一層図り、対応していきたいと考えています。

教える側への地域の参加について

【参加者からのご意見⑤】

○ 先生だけでなく地域も教える側に加え、子どもたちの職業観の醸成につなげてみては…

【これからの対応について】

● 生徒のためであることはもとより、地域に根ざした持続可能な学校とするためにも、尼崎市の様々な人材や教育資源を活用し、ゲストティーチャーや体験活動を通して、職業観を育んだり、地域との繋がりを学んだりする機会を作りたいと考えています。

みんなの
尼活
皆議

開かれた環境づくりを

【参加者からのご意見⑥】

○ 子どもや保護者が担任以外の先生と話しやすい開かれた環境にできないのかなぁ。

【これからの対応について】

● 担任はもとより、担任以外の教員や事務職員、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーといった職員とも気軽に関わることができる体制を作りたいと考えています。

先生や事務スタッフの増員について

【参加者からのご意見⑦】

○ 先生の負担を軽減し、子どもたちと向き合う時間をもっと確保できるようにするため、先生や事務スタッフを増員してほしい。

【これからの対応について】

● 教員の配置の充実について、兵庫県に要望を行っているところですが、あわせて、教員が生徒と向き合う時間を確保するために、従来の学校における役割分担にはとらわれず、より効率的な校務運営を図っていきたいと考えています。

（※）参加者のみなさまのご意見や取組中（または取組予定）の事業等は、代表して一部のみを掲載しています。
この他にいただいたご意見等は、尼崎市公式ホームページに掲載の車座集会の対話録をご覧ください。